

成人看護学実習における臨地実習指導者の指導行動の評価に関する研究

村 口 孝 子・平 野 裕 美・出 石 幸 子  
永 見 純 子・小 野 晴 子

Takako MURAGUCHI, Hiromi HIRANO, Sachiko IZUISHI,

Junko NAGAMI, Haruko ONO :

The Study of Effective Clinical Teaching Behaviors of Bedside Training

Instructors in The Adult Nursing Clinical Practicum

鳥取看護大学・鳥取短期大学研究紀要 第74号 抜刷

2017年1月

## 成人看護学実習における臨地実習指導者の 指導行動の評価に関する研究

村口孝子<sup>1</sup>・平野裕美<sup>1</sup>・出石幸子<sup>1</sup>  
永見純子<sup>1</sup>・小野晴子<sup>2</sup>

Takako MURAGUCHI, Hiromi HIRANO, Sachiko IZUSHI,

Junko NAGAMI, Haruko ONO :

The Study of Effective Clinical Teaching Behaviors of Bedside Training  
Instructors in The Adult Nursing Clinical Practicum

本研究は、平成29年度から成人看護学実習を受け入れる13施設の看護職者を対象に、臨地実習指導者の指導行動を明らかにし、臨地実習指導者と連携を深めながら協働した指導方法を検討する事を目的とした。臨地実習指導者のECTB平均得点は、『理論的指導』、『学習への刺激』については他の要素に比べて得点が低く、今後、意図的に協働・連携する必要があることが示唆された。兼任の指導者、受け入れている教育課程数では3課程以上で指導行動が高かった。

キーワード：指導行動評価 成人看護学実習 臨地実習指導者

### はじめに

臨地実習は、看護学教育において看護実践能力を育成する上で非常に重要な科目であり、かつ最も効果的な授業形態である。臨地での実習によって、学生は『知る』、『わかる』段階から『使う』、『実践できる』段階に到達し、看護行為を行うという過程で、援助の人間形成能力や専門職者としての役割や責務を果たす能力が育まれる<sup>1)</sup>。この科目における指導上の特徴は、看護教員と臨地実習指導者（以下、指導者）である看護職者とが協働して行うところにある。藤岡<sup>2)</sup>は「指導者が学生にあたえる影響は大きく、指導者自身の考えかた、態度、学習への動機づけなどが学生の実習目標達成に向けての意欲、自主性、自立性に影響し、実習成果についての学生の満足の側面にも大きな影響を与える」と述べている。

学生にとって効果的な学びを提供するためには、実習環境の中で教員や指導者が意図的にかかわること、指導者各々が、実習目的や役割を理解し、連携・協働して学生指導に当たる事が大切である。

本学では、平成29年度から成人看護学実習が5週間の期間で開始となる。成人看護学実習は、「成人各期の対象となる人々を総合的に理解し、各々が役割責任を持ち活動するために、健康の維持増進、疾病予防から回復に至るまで健康のあらゆるレベルに対応できる援助能力としての知識、技術、態度を習得すること」<sup>3)</sup>を目的としている。そのためには、臨地実習を受け入れる施設と教員の連携・協働が不可欠となる。なかでも、学生が受け持つ患者の看護に責任を持ち、指導する指導者の役割は、学生の学びに大きな影響を与える。そこで指導者の指導行動について調査を行い、臨地実習指導の在り方を検討するための基礎資料にしたいと考えた。

看護学実習における教員の指導行動の質の評価に関して、Zimmermanら(1988)が開発したEffective

1 鳥取看護大学看護学部看護学科

2 前鳥取看護大学看護学部看護学科

Clinical Teaching Behaviors (以下, ECTB) という評価スケールを用いた研究が複数報告されている。わが国では, 石川ら (1991) が看護学生を対象に ECTB を用い, 信頼性・妥当性について検証しているほか, 石川ら (1992) は看護師の自己評価用としての ECTB の妥当性についても検証している。以後, 金木 (1997), 坂梨 (1998), 舟越 (2003), 中西 (2002), 影本 (2008)<sup>4)</sup>, 山本 (2014)<sup>5)</sup>らが看護師の実習指導の自己評価に ECTB を用い, 指導者の自己評価と学生の指導者評価を比較したり, 指導者の臨床経験や実習指導経験別に指導行動を評価したりしており, これらの研究によって ECTB の有効性が明らかにされてきた。

本学は平成 29 年 8 月から全県下の病院施設を利用して臨地実習を行うが, 施設の規模, 看護水準は多岐に渡っている。近年, 在院日数の短縮化により学生が実習期間を通して一人の患者を受け持つことが難しくなっており, 患者の権利擁護などで, 限られた時間や体験になっているために最大限の工夫をしてその効果を高める必要がある。このような現状の中, 看護教員は地域や施設によって学生の学びに偏りがないようにしなければならない。また, 受け入れ施設が複数に渡るため, 教員はそれぞれの施設の特徴を把握することや, 調整能力が要求される。

本研究では, 13 施設の実習指導体制の現状を把握するために, 学生指導に関わる看護職者を対象に, 実習指導行動の評価について調査を行った。

## 1. 研究の目的

臨地実習指導者の指導行動を明らかにし, 臨地実習指導者と連携を深めながら協働した指導方法を検討する。

## 2. 研究方法

### (1) 研究デザイン

質問紙調査方法 無記名式の質問紙郵送法。

### (2) 調査方法

本学の成人看護学実習を受ける 13 施設の病院の看護部長, 看護局長へ文書で研究協力を依頼した。研究協力の同意を得られた 13 施設の看護部長, 看護局長へ質問紙を送付し, 対象者への配布を依頼し, 回収は質問紙を受け取って 2 週間以内に対象者が任意に投函する郵送方法で行った。

### (3) 対象

研究協力の同意が得られた 13 施設の看護師 406 名を対象とした。

### (4) 調査期間

平成 27 年 8 月～9 月

### (5) 調査内容

#### 1) 対象者の属性

年齢, 看護師経験年数, 実習指導者としての経験年数, 病院の病床区分, 実習指導者講習会受講の有無, 系列の看護学校の有無, 所属部署で受け入れている看護学校数, 教育課程数, 実習指導体制について調査した。

#### 2) 評価尺度

実習指導者の指導行動を評価する尺度として ECTB 評価スケールを用いた。4 つの指導要素『実践的な指導 (6 項目)』『理論的な指導 (7 項目)』『学習意欲への刺激 (13 項目)』『学生への理解 (12 項目)』, その他の『要素外の項目 (5 項目)』全 43 項目について回答を得点化した。今回の ECTB 評価スケールは, 中西<sup>6)</sup>らが改変したものを参考に指導者が答えやすいように一部改変して使用した。

#### 3) 評価方法

ECTB の各項目を「そうだ」(5 点), 「どちらかといえばそうだ」(4 点), 「どちらでもない」を中性点 (3 点) とし, 「やや違う」(2 点) から「違う」(1 点) の 5 段階評価のリッカートスケールで評価した。得点が高いほど指導者が効果的な指導を行ったとの自己評価を示す。

## (6) 用語の定義

1) 臨地実習指導者：臨地実習を受け入れている病棟において学生と接する機会がある全ての看護職者。

2) 専任指導者：実習期間の学生指導の中心的役割を担う看護職者（以下、専任）

3) 兼任指導者：その日の看護ケアを中心に学生指導を行う看護職者（以下、兼任）

4) 専任指導者と兼任指導者：実習期間中、専任指導者と兼任指導者による学生指導が行われる体制（以下、専任・兼任）

5) 実習指導者講習会：看護協会が各都道府県の委託を受けて主催している、看護職者の実習指導能力向上を目的とした講習会。

## (7) データの分析方法

統計処理、分析にはSPSS統計パッケージVersion23を使用した。

1) ECTBの指導要素、43項目の平均得点および標準偏差の算出

2) ECTBの要素・項目の平均得点と各変数を比較した。実習指導者講習会の受講の有無をマン・ホイットニーのU検定で、病棟に受け入れている学校数と教育課程数、実習指導者体制については、クラスカル・ウォリス検定を用いて分析し、共に有意水準を5%以下とした。

## (8) 倫理的配慮

本研究は鳥取看護大学・鳥取短期大学研究倫理審査委員会承認（承認番号2015-4）を得た後、研究協力を得られた施設の看護部（局）長宛に研究目的と意義、研究の方法、倫理的配慮を文書で説明し、協力を依頼した。研究対象者には、研究者の身分、研究の目的、プライバシーの保護に関する倫理的配慮について明記した文書を質問紙に添え、看護部（局）を通して配布した。倫理的配慮として、協力により得られたデータ及び結果は、施設、個人が特定されないようにデータをコード化し、匿名性を保証し研究目的以外に使用しない事を明記した。回答

をもって同意したと見なした。無記名式調査であり、個々の質問紙は対象者が記入後郵送法にて行った。

## 3. 結果

### (1) 回収率

看護師406名に調査票を配布し207人（回収率51%）の調査票を回収した。有効回答数は198人（96%）であった。

### (2) 対象者の属性（表1）

#### 1) 対象者の概要

看護師の平均年齢は $39.9 \pm 9.94$ 歳、看護師経験年数 $17.3 \pm 10.04$ 年、実習指導者経験年数 $5.90 \pm 5.96$ 年であった。病床区分では、99床以下34人（17.2%）、100～199床35人（17.7%）、200～299床38人（19.2%）であった。300～399床51人（25.8%）、400床以上40人（20.2%）であった。

#### 2) 系列の看護学校の有無と実習指導者講習会受講の有無

系列の看護学校の有無では、「ある」が60人（30.8%）、「ない」が135人（69.2%）であった。実習指導者講習会受講の有無では、「ある」が68人（35.1%）、「ない」が126人（64.9%）であった。

#### 3) 病棟に受け入れている学校数及び教育課程数

病棟に受け入れている学校数は、1校が97人（52.1%）、2校が58人（31.2%）、3校以上が31人（16.7%）であった。教育課程は1課程が105人（57.4%）、2課程が59人（32.2%）、3課程が16人（8.7%）、4課程以上が3人（1.6%）であった。

#### 4) 実習指導体制

実習指導体制は、専任のみが6人（3.4%）、専任と兼任が78人（44.1%）、兼任のみが93人（52.5%）であった。

### (3) ECTB評価スケールの測定結果（表2）

ECTBの要素別平均得点は、高い順に、『学生への理解』 $3.88 \pm 0.71$ 点、『要素外の項目』 $3.74 \pm 0.77$

表1 対象者の属性

		平均値	標準偏差
年齢	(歳)	39.9	9.94
看護師経験年数	(年)	17.3	10.04
実習指導者経験年数	(年)	5.9	5.96
		人数	%
病床区分 (n=198)	99床以下	34	(17.2)
	100～199床	35	(17.7)
	200～299床	38	(19.2)
	300～399床	51	(25.8)
	400床以上	40	(20.2)
系列の看護学校の有無 (n=195)	有	60	(30.8)
	無	135	(69.2)
実習指導者講習会受講の有無 (n=194)	有	68	(35.1)
	無	126	(64.9)
受け入れている学校数 (n=186)	1校	97	(52.1)
	2校	58	(31.2)
	3校以上	31	(16.7)
受け入れ教育課程 (n=183)	1課程	105	(57.4)
	2課程	59	(32.2)
	3課程	16	(8.7)
	4課程以上	3	(1.6)
指導体制 (n=177)	専任のみ	6	(3.4)
	専任と兼任	78	(44.1)
	兼任のみ	93	(52.5)

点、『実践的指導』3.75 ± 0.74 点、『理論的指導』3.59 ± 0.75 点、『学習意欲への刺激』3.57 ± 0.71 点であった。

43項目の平均得点は、3.70 ± 0.73 点であった。項目を得点の高い順に見ると、最も高かったものは、「学生がうまくやれた時には、そのことを伝えている」4.25 ± 0.7 点、次に「ケアの実施時には、学生に基本的な原則を確認している」4.18 ± 0.67 点、「学生が緊張している時には、リラックスさせるようにしている」4.11 ± 0.68 点、「学生に対し思いやりのある姿勢でかかわっている」4.08 ± 0.62 点、「専門的な知識を学生に伝えるようにしている」4.03 ± 0.71 点、「患者と良い人間関係をとっている」4.03 ± 0.58 点、「学生に対し(裏表なく)率直である」4.01 ± 0.69 点であった。43項目中7項目が4点台であった。得点の低い項目は、「記録物についてのア

ドバイスは、タイミングをつかんで行えている」3.18 ± 0.94 点、「実習グループの中で、学生が互いに刺激しあって向上できるように働きかけている」3.18 ± 0.88 点、「より良い看護援助をするために、学生に文献を活用するように言っている」3.23 ± 0.88 点、「学生自身が自己評価をできやすくするように働きかけている」3.27 ± 0.72 点であった。

#### (4) 実習指導者講習会受講の有無と ECTB 得点との関連 (表3)

43項目中41項目で実習指導者講習会受講者の方が ECTB の平均得点が高かった。「記録物についてのアドバイスは、タイミングをつかんで行えている」、「指導の方法は統一している」の2項目は未受講者の平均得点が高かったが、有意差は認められなかった。

(5) 病棟に受け入れている学校数と ECTB 得点との関連 (表 4)

「1校」, 「2校」, 「3校以上」の3群間でECTBの得点を見ると, すべての要素で「3校以上」の群の平均得点が高かった. 『要素外の項目』では「1校」より「3校以上」のほうが有意に高かった.

項目別では, 43項目中37項目で「3校以上」の群が3群間で一番高かった. 「1校」の群では, 「ケアの実施時には, 学生に基本的な原則を確認している (平均得点 4.25)」, 「記録物についてのアドバイスは, タイミングをつかんで行えている (3.29)」の平均得点が3群間で高かった. 「学生がうまくやれた時には, そのことを伝えている (4.39)」, 「学生の受持ち患者様と, その患者様へのケアに関心を示している (4.00)」, 「学生に良い刺激となるような話題を投げかけている (3.58)」, 「学生がうまくいかなかった時, そのことを学生自身が認めることができるように働きかけている (3.54)」が「1校」の群, 「3校以上」の群より「2校」の群の平均得点が高かった.

「学生が学ぶことの必要性や学習目標を認識できるように支援している (4.00)」, 「カンファレンスや計画の発表に対し建設的な姿勢で指導している (3.95)」, 「学生がより高いレベルに到達できるような対応をしている (3.66)」, 「学生が新しい体験ができるような機会を作っている (4.08)」, 「グループカンファレンスや計画発表に適切な助言をしている (3.97)」, 「担当教員と良い人間関係を保っている (4.00)」は, 「3校」の群が「1校」の群より有意に高かった ( $P < 0.05$ ).

(6) 病棟に受け入れている教育課程数と ECTB 得点との関連 (表 5)

「1課程」, 「2課程」, 「3課程」, 「4課程以上」の4群間の要素別平均得点の比較では, 『実践的指導』『理論的指導』で「3課程」の群が高く, 『学習意欲の刺激』『学生の理解』『要素外の項目』で「4課程以上」の群が高かった. 『理論的指導』の要素では,

「3課程 (平均得点 28.27)」の群が「1課程 (24.92)」の群, 「2課程 (24.84)」の群とともに, 有意に高かった ( $P < 0.05$ ). また, 『要素外の項目』要素では, 「3課程 (平均得点 20.25)」の群が「1課程 (18.21)」の群より有意に高かった ( $P < 0.05$ ).

項目別では, 「1課程」の群では43項目中1項目, 「3課程」の群では43項目中15項目, 「4課程以上」の群では27項目が, 4群間で平均得点が高かった. しかし, 「2課程」の群では4群間で平均得点の高いものはなかった. 「1課程」の群では, 「記録物についてのアドバイスは, タイミングをつかんで行えている (平均得点 3.38)」が, 「2課程 (2.87)」より有意に高かった ( $P < 0.05$ ). 「学生が学ぶことの必要性や学習目標を認識できるように支援している」は, 「3課程 (平均得点 4.25)」の群が「1課程 (3.73)」の群, 「2課程 (3.84)」の群とともに, 有意に高かった ( $P < 0.05$ ). 「より良い看護援助をするために, 学生に文献を活用するように言っている」, 「学生に事柄を評価しながら考えてみるように言っている」も同様の結果であった. 「カンファレンスや計画の発表に対し建設的な姿勢で指導している」は各群間に有意差を認めたが, 「3課程」の群と「4課程」の群の間には有意差を認めなかった. 「学生が新しい体験が出来るような機会を作っている」も同様な傾向であり, 「2課程」の群と「3課程」の群, 「3課程」の群と「4課程」の群以外は, 各群間に有意差を認めなかった ( $P < 0.05$ ). 「学生が実施してよい範囲・事柄を, 実習の過程に応じて明確に示している」は, 「3課程」の群が「1課程」, 「2課程」の群とともに, 有意に高かった ( $P < 0.05$ ). 「グループカンファレンスや計画発表に適切な助言をしている」は, 「4課程以上 (平均得点 4.67)」の群が, 「1課程 (3.55)」の群, 「2課程 (3.70)」の群との間で有意差を認めた ( $P < 0.05$ ). また, 「3課程 (4.13)」と「2課程 (3.70)」の群間と, 「3課程 (4.13)」の群と「1課程 (3.55)」の群間でも有意差を認めた ( $P < 0.05$ ). 「担当教員と良い人間関係を保っている」は, 「2課程 (平均得点 3.72)」の群が「1課程 (3.22)」の群より有意

に高く、「3 課程 (3.81)」の群は、「1 課程」の群より有意に高かった ( $P < 0.05$ )。

#### (7) 各病棟の実習指導者の実習指導体制と ECTB 得点との関連 (表 6)

要素では、『要素外の項目』で、「兼任のみ (平均得点 19.14)」の群は、「専任のみ (15.33)」の群、「専任と兼任 (18.41)」の群ともに、有意に高かった ( $P < 0.05$ )。

項目では、「グループカンファレンスや計画発表に適切な助言をしている」は、「専任のみ (2.50)」の群より、「兼任のみ (3.80)」の群の方が有意に高く、「専任のみ」の群より「専任と兼任」の群の方が有意に高かった。「実習の展開過程において、適切なアドバイスをしている」は、「兼任のみ (平均得点 3.73)」の群が、「専任のみ (2.67)」の群より有意に高かった ( $P < 0.05$ )。

## 4. 考察

### (1) ECTB 得点について

指導要素では、『学生への理解』が最も平均得点が高かった。先行研究でも同様な結果であった<sup>7)</sup>。このことは、指導者が学生に歩みより学生一人ひとりに向き合って良い関係を持つことで、学生は認められていると思い、「やってみよう」、「頑張ってみよう」という主体性を育む動機づけになり、学習意欲が高められ、肯定的な経験ができると考える。山田<sup>8)</sup>は「看護師が受けた基礎教育の認識で、共感や尊重されたという認知の高い看護師は、学生を肯定的に捉えている傾向がうかがえた」と述べている。項目別では、『学生への理解』の「学生がうまくやれた時には、そのことを伝えている」が、43 項目中一番平均得点が高かった。また、「学生が緊張している時には、リラックスさせるようにしている」は、平均得点が 4 点台であった。臨地実習において、学生は学内という今までの慣れた環境とは異なる病院あるいは施設で、ストレスや過度の緊張の場に身

を置くこととなる。したがって、臨地実習指導では、その指導にあたる指導者の存在は非常に重要である。指導者の主な役割について、藤岡<sup>9)</sup>は「モデルを示すこと」、渡部ら (2013)<sup>10)</sup>は、指導者の「看護実践の役割モデル」の認識は「理論 (知識・技術) を実践と統合できる人」と挙げている。自分の実体験を基に、学生の立場に立ち、看護学生の気持ちに寄り添い、学生を理解しようとし、また、看護実践の役割を担っていることが伺える。

『実践的指導』は、『学生への理解』の次に高い得点を示した。「ケアの実施時には、学生に基本的な原則を確認している」は、2 番目に平均得点が高かった。臨地実習では、学生が受け持っている患者を担当している様々な看護経験や指導経験をもつ看護職者が、受け持ち患者の看護を行う。実践的指導のなかで学生は、指導者の助言や指導を受けながら共に看護を実践し、多くの気づきや学びをすることとなる。看護ケアは、患者の個別性を踏まえて、原則に基づいて行われているため、指導者は、学生指導を行う際に基本的な原則を確認しているという評価につながっているものと考えられる。

一方で、指導者の ECTB 平均得点は、『理論的指導』『学習意欲への刺激』について、他の要素に比べて得点が低かった。教員と臨地指導者が連携をとり、効果的な実習指導に繋げる必要があることが示唆された。

### (2) 病棟に受け入れている学校数と ECTB 得点との関連

『要素外の項目』の要素と、43 項目の中で「学生が学ぶことの必要性や学習目標を認識できるように支援している」、「学生が新しい体験ができるような機会を作っている」、「カンファレンスや計画の発表に対し建設的な姿勢で指導している」、「学生がより高いレベルに到達できるような対応をしている」、「グループカンファレンスや計画発表に適切な助言をしている」、「担当教員と良い人間関係を保っている」の 6 項目で、受け入れ学校数が「3 校以上」の

群が有意に高かった。これらのうち、「学生が学ぶことの必要性や学習目標を認識できるように支援している」については、1病棟に複数の学校の実習を受け入れなければならないため、実習要綱を確認し、各学校の実習目標、学生の指導内容の理解をしようとする行動がとれていると推測される。椎葉<sup>11)</sup>は、「協働への影響度が大きい実習施設的环境要因は、『会議開催間隔』『実習指導者の会議参加』である」と述べている。複数校を受け入れる場合、会議に指導者が参加し、実習目標や学生の学習状況の把握をする機会があり、情報の提供がなされることによって、学校の実習目標を意識した指導につながっているのではないかと推測される。また、「カンファレンスや計画の発表に対し建設的な姿勢で指導している」に有意差がみられたことについては、複数校の実習をより効果的に行うために、指導者は学生のカンファレンスに参加することで、実習目標や学生の学習状況を把握し、学生の理解を深めようとしているものと考えられる。更に、「担当教員と良い人間関係を保っている」という項目に有意差がみられたことについては、複数校を受け入れるため、教員との関係性を保つことで、情報を共有し、効果的な臨地実習指導に繋がりたいと考えていると考えられる。

### (3) 病棟に受け入れている課程数とECTB得点との関連

受け入れ学校数と同様に受け入れている課程数が多いほど平均得点が高い傾向にあった。

要素別では、『理論的指導』で有意差を認め、「3課程」の群が、「1課程」の群より有意に高かった。この項目で有意差を認めたものは、「学生が学ぶことの必要性や学習目標を認識できるように支援している」、「より良い看護援助をするために、学生に文献を活用するように言っている」、「学生に事柄を評価しながら考えてみるように言っている」の3項目であった。「3課程」「4課程以上」の看護師は、複数の教育課程の学生を指導する中で、経験として集団思考による成果を期待することや、臨地実習の教

育目標の理解を深め、学習カンファレンスの重要性を認識しているものと考えられる。また、学生が新しい体験をすることに気を配りながら、方向付けも行うように配慮していることも同様に、複数の教育課程の学生を指導する経験から得られたものと考えられる。「3課程」「4課程以上」の看護師は実習目標の違いを意識して指導を行っていることが示唆された。学生には体験したことだけではなく、裏付けされた根拠や理論を用いた看護実践を指導していることが推測された。今後、指導の充実を図るうえで、実習要綱・実習要領に明確な指導内容が記載されていることが指導のしやすさにつながる<sup>12)</sup>と考える。

### (4) 実習指導体制とECTB得点との関連

指導体制については、『理論的指導』、「専門的知識を学生に伝えるようにしている」、「学生に対して看護者としてよいモデルになっている」は、「専任と兼任」の群、「兼任のみ」の群で有意差が見られ「兼任のみ」の群が高かった。山本ら(2014)<sup>13)</sup>は、「臨地実習指導者及び実習指導係と日々の指導者では、『学習意欲の刺激』、『理論的な指導』、『学生への理解』で日々の指導の方が有意に低かったが、『実践的な指導』では有意差は認められなかった」と報告している。本研究では、すべての要素で「兼任指導者」の指導行動の平均得点が高かった。これは、2010年4月より病院・施設での『新人看護職員臨床研修』の実施が努力義務化され、人材育成に関心が高まってから数年経過していることにより、学生をみんなで育てる基盤が出来上がっているのではないかと考える。

今回、指導体制において山本と違う結果が得られた要因は、本県の特性ではないかと推測する。本県は平成27年に本学、看護専門学校が開設されたが、平成11年から26年まで、看護学校の設置数には大きな変化がなく、この数十年間同じ看護学校が同じ施設を実習場所として利用しているためではないかと考える。また変化がなかったがゆえに、複数の学校数や教育課程数であっても、各施設における臨地実習指導者や管理者の努力で、臨地実習は成立してきたと思われる。

今後、本学の領域実習が開始となる際に、実習要綱・実習要領に明確な指導内容が記載されているよう検討するとともに、今回の調査で明らかになった本県の指導者の傾向を踏まえて、意図的に指導者の強みを活かし、弱みを補完し合いながら、より効果的な指導における臨地と大学との相互理解に基づく連携・協働を進めていきたいと考える。

## 5. 研究の限界と課題

今回の調査では対象者の約50%の回答しか得られなかった。今回の調査結果を基礎的資料とし、継続調査を行う必要があると考えている。

## 6. 結語

(1) 臨地実習指導者の指導行動は、4つの要素では『学生理解』の平均得点が高かった。学生がうまくやれた時にはそのことを伝え、ケアの実施時には学生に基本的な原則を確認しながら学生指導を行っていた。

(2) 指導体制では、52.5%が兼任であり、ECTB得点は他の指導体制に比べ得点が高かった。

(3) 臨地実習指導者の指導行動では、『理論的指導』、『学習意欲への刺激』の平均点が、他の要素と比較して低かったため、今後、意図的に協働・連携する必要がある。

(4) 指導の充実を図るうえで、実習要綱・実習要領に明確な指導内容が記載されていることが指導のしやすさにつながる。

## 謝辞

本研究にご協力いただいた病院関係者の皆様に感謝いたします。

## 引用・参考文献

1) 文部科学省：「臨地実習指導体制と新卒者の支

援」, <http://www.mext.go.jp>, (2016. 9. 26).

2) 藤岡完治『看護教育講座6看護教員と臨地実習指導者』第1版, 医学書院, 2004.

3) 川本利恵子『臨地実習指導ナビゲーター—初めて臨地実習指導をする人のために—』, ユリシス・出版部, 2013, p. 96.

4) 影本妙子他「成人看護学慢性期・終末期の実習指導の分析—ECTB評価スケールを用いて—」, 『川崎医療短期大学紀要』28号, 2008, pp. 27-31.

5) 山本純子他「日本語版ECTBを用いた成人看護学実習の指導評価—看護学生と実習指導者, 実習指導者の役割による比較から—」, 『千里金蘭大学紀要』11号, 2014, pp.121-129.

6) 中西啓子他「Effective Clinical Teaching Behaviors (ECTB) 評価スケールを用いた看護実習指導の分析—第1報—」, 『川崎医療短期大学紀要』22号, 2002, pp. 19-24.

7) 前掲5)

8) 山田豊子他「臨地実習指導における看護師の役割意識調査について—看護師の受けた看護基礎教育に関する認識から—」, 『京都市立看護短期大学紀要』第30号, 2005, pp. 105-110.

9) 藤岡完治『学生とともに創る臨床実習指導ワークブック』第2版, 医学書院, 2001, pp. 60-61.

10) 渡部菜穂子, 一戸とも子「臨地実習指導者の「看護実践の役割モデル」の認識と指導行動との関連」, 『弘前学院大学看護紀要』第8巻, 2013, pp. 11-23.

11) 椎葉美千代他「看護学実習における実習指導者と教員の協働に影響する要因」, 『産業医科大学雑誌』32巻2号, 2010, pp. 161-176.

12) 永見純子他「新設A看護大学の成人看護学実習における臨地実習指導者の思い—4課程の実習指導経験から大学教育の実習を受けるにあたって—」, 『鳥取看護大学・鳥取短期大学研究紀要』第72号, 2015, pp. 1-7.

13) 前掲5).

表2 臨地実習指導者のECTB平均得点

(n=178)

	平均値	標準偏差
<b>実践的指導</b>	<b>3.75</b>	<b>0.74</b>
2. ケアの実施時には、学生に基本的な原則を確認している	4.18	0.67
12. 専門的な知識を学生に伝えるようにしている	4.03	0.71
16. 学生に対して看護者としてよいモデルになっている	3.56	0.72
21. 理論的内容や既習の知識・技術などの実施に臨床の場で適用して見るように働きかけている	3.74	0.75
25. 記録物についてのアドバイスは、タイミングをつかんで行えている	3.18	0.94
31. 必要と考えるときには、看護援助行動のお手本を学生に示している	3.80	0.66
<b>理論的指導</b>	<b>3.59</b>	<b>0.75</b>
5. 学生に対し客観的な判断をしている	3.84	0.65
6. 看護専門職としての責任を学生が理解するように働きかけている	3.73	0.73
7. 学生の不足なところや欠点を、学生が適切に改善できるように働きかけている	3.71	0.66
8. 学生が学ぶことの必要性や学習目標を認識できるように支援している	3.80	0.66
19. より良い看護援助をするために、学生に文献を活用するように言っている	3.23	0.88
20. 学生に事柄を評価しながら考えてみるように言っている	3.48	0.81
24. 記録物の内容について適切なアドバイスをしている	3.31	0.87
<b>学習意欲への刺激</b>	<b>3.57</b>	<b>0.71</b>
8. カンファレンスや計画の発表に対し建設的な姿勢で指導している	3.70	0.76
15. 学生が“看護に興味深い”と思えるような姿勢で仕事している	3.56	0.72
18. 学生が実施してよい範囲・事柄を、実習の過程に応じて明確に示している	3.62	0.76
23. 学生がより高いレベルに到達できるような対応をしている	3.39	0.66
27. 学生が新しい体験ができるような機会を作っている	3.76	0.68
30. 実習グループの中で、学生が互いに刺激しあって向上できるように働きかけている	3.18	0.88
33. 学生が新しい状況や、今までと異なった状況に遭遇した時は方向づけている	3.48	0.70
35. 学生自身が自己評価をできやすくするように働きかけている	3.27	0.72
37. 学生が何か選択に迷っている時、選択できるように援助している	3.70	0.62
38. 学生に良い刺激となるような話題を投げかけている	3.50	0.78
41. 学生がうまくいかなかった時、そのことを学生自身が認めることができるように働きかけている	3.52	0.68
42. 学生の受持ち患者様と、その患者様へのケアに関心を示している	3.93	0.68
43. 学生が学習目標を達成するために、適切な経験ができるように援助している	3.85	0.62
<b>学生への理解</b>	<b>3.88</b>	<b>0.71</b>
4. 学生に対し（裏表なく）率直である	4.01	0.69
9. 学生に対し思いやりのある姿勢でかかわっている	4.08	0.62
10. 学生がうまくやれた時には、そのことを伝えている	4.25	0.70
11. 学生が緊張している時には、リラックスさせるようにしている	4.11	0.68
13. 学生同士で自由な討論ができるようにしている	3.51	0.84
17. 学生が気軽に質問できるような雰囲気を作っている	3.76	0.78
22. 学生に対する要求は、学生のレベルで無理のない要求である	3.88	0.64
26. 学生一人一人と良い人間関係をとるようにしている	3.80	0.73
28. 物事に対して柔軟に対応している	3.84	0.66
34. 学生の言うことを受け止めている	3.94	0.68
39. 指導の方法は統一している	3.55	0.78
40. 学生に対し忍耐強い態度で接している	3.78	0.75
<b>要素外の項目</b>	<b>3.74</b>	<b>0.77</b>
1. 学生に実習する上での情報を提供している	3.91	0.70
3. グループカンファレンスや計画発表に適切な助言をしている	3.65	0.81
29. 実習の展開過程において、適切なアドバイスをしている	3.63	0.76
32. 患者と良い人間関係をとっている	4.03	0.58
36. 担当教員と良い人間関係を保っている	3.47	1.01

表3 実習指導者講習会受講の有無と ECTB 得点との関連

	あり (n=66)	なし (n=126)	P
<b>実践的指導</b>	<b>23.33</b>	<b>21.99</b>	<b>0.00</b>
2. ケアの実施時には、学生に基本的な原則を確認している	4.22	4.15	
12. 専門的な知識を学生に伝えるようにしている	4.20	3.94	0.02
16. 学生に対して看護者としてよいモデルになっている	3.81	3.42	0.00
21. 理論的内容や既習の知識・技術などの実施に臨床の場で適用してみるように働きかけている	3.94	3.62	0.01
25. 記録物についてのアドバイスは、タイミングをつかんで行えている	3.16	3.19	
31. 必要と考えるときには、看護援助行動のお手本を学生に示している	4.00	3.68	0.00
<b>理論的指導</b>	<b>26.34</b>	<b>24.33</b>	<b>0.00</b>
5. 学生に対し客観的な判断をしている	3.95	3.77	
6. 看護専門職としての責任を学生が理解するように働きかけている	3.89	3.63	0.02
7. 学生の不足なところや欠点を、学生が適切に改善できるように働きかけている	3.86	3.63	0.01
14. 学生が学ぶことの必要性や学習目標を認識できるように支援している	3.94	3.72	0.04
19. より良い看護援助をするために、学生に文献を活用するように言っている	3.45	3.07	0.00
20. 学生に事柄を評価しながら考えてみるように言っている	3.67	3.37	0.01
24. 記録物の内容について適切なアドバイスをしている	3.58	3.14	0.00
<b>学習意欲への刺激</b>	<b>48.68</b>	<b>45.14</b>	<b>0.00</b>
8. カンファレンスや計画の発表に対し建設的な姿勢で指導している	3.92	3.56	0.00
15. 学生が“看護は興味深い”と思えるような姿勢で仕事している	3.71	3.47	0.05
18. 学生が実施してよい範囲・事柄を、実習の過程に応じて明確に示している	3.84	3.49	0.00
23. 学生がより高いレベルに到達できるような対応をしている	3.48	3.33	
27. 学生が新しい体験ができるような機会を作っている	3.98	3.62	0.00
30. 実習グループの中で、学生が互いに刺激しあって向上できるように働きかけている	3.39	3.05	0.01
33. 学生が新しい状況や、今までと異なった状況に遭遇した時は方向づけている	3.72	3.34	0.00
35. 学生自身が自己評価をできやすくするように働きかけている	3.39	3.19	
37. 学生が何か選択に迷っている時、選択できるように援助している	3.84	3.62	0.01
38. 学生に良い刺激となるような話題を投げかけている	3.56	3.46	
41. 学生がうまくいかなかった時、そのことを学生自身が認めることができるように働きかけている	3.72	3.41	0.00
42. 学生の受持ち患者様と、その患者様へのケアに関心を示している	4.13	3.83	0.01
43. 学生が学習目標を達成するために、適切な経験ができるように援助している	3.98	3.77	0.01
<b>学生への理解</b>	<b>47.81</b>	<b>45.81</b>	<b>0.03</b>
4. 学生に対し（裏表なく）率直である	4.09	3.97	
9. 学生に対し思いやりのある姿勢でかかわっている	4.16	4.03	
10. 学生がうまくやれた時には、そのことを伝えている	4.40	4.15	0.03
11. 学生が緊張している時には、リラックスさせるようにしている	4.27	4.00	0.01
13. 学生同士で自由な討論ができるようにしている	3.62	3.47	
17. 学生が気軽に質問できるような雰囲気を作っている	3.93	3.66	0.04
22. 学生に対する要求は、学生のレベルで無理のない要求である	4.03	3.79	0.02
26. 学生一人一人と良い人間関係をとるようにしている	3.94	3.74	
28. 物事に対して柔軟に対応している	3.94	3.79	
34. 学生の言うことを受け止めている	4.01	3.91	
39. 指導の方法は統一している	3.56	3.57	
40. 学生に対し忍耐強い態度で接している	3.85	3.74	
<b>要素外の項目</b>	<b>19.31</b>	<b>18.88</b>	
1. 学生に実習する上での情報を提供している	3.96	3.89	
3. グループカンファレンスや計画発表に適切な助言をしている	3.76	3.58	
29. 実習の展開過程において、適切なアドバイスをしている	3.76	3.55	
32. 患者と良い人間関係をとっている	4.13	3.98	
36. 担当教員と良い人間関係を保っている	3.70	3.33	0.01

表4 病棟に受け入れている学校数と ECTB 得点との関連

	1校 (n=97)	2校 (n=58)	3校以上 (n=31)	P
<b>実践的指導</b>	22.71	22.04	22.78	
2. ケアの実施時には、学生に基本的な原則を確認している	4.25	4.17	4.03	
12. 専門的な知識を学生に伝えるようにしている	4.11	3.92	4.11	
16. 学生に対して看護者としてよいモデルになっている	3.57	3.48	3.66	
21. 理論的内容や既習の知識・技術などの実施に臨床の場で適用してみるように働きかけている	3.75	3.67	3.87	
25. 記録物についてのアドバイスは、タイミングをつかんで行えている	3.29	3.06	3.08	
31. 必要と考えるときには、看護援助行動のお手本を学生に示している	3.75	3.75	3.97	
<b>理論的指導</b>	25.01	24.85	26.11	
5. 学生に対し客観的な判断をしている	3.79	3.90	3.97	
6. 看護専門職としての責任を学生が理解するように働きかけている	3.77	3.63	3.87	
7. 学生の不足なところや欠点を、学生が適切に改善できるように働きかけている	3.65	3.77*	3.87	
14. 学生が学ぶことの必要性や学習目標を認識できるように支援している	3.73	3.83	4.00	0.021
19. より良い看護援助をするために、学生に文献を活用するように言っている	3.28	3.04	3.37	
20. 学生に事柄を評価しながら考えてみるように言っている	3.45	3.50	3.63	
24. 記録物の内容について適切なアドバイスをしている	3.37	3.19	3.41	
<b>学習意欲への刺激</b>	45.86	46.21	48.43	
8. カンファレンスや計画の発表に対し建設的な姿勢で指導している	3.63	3.70	3.95	0.050
15. 学生が“看護は興味深い”と思えるような姿勢で仕事している	3.56	3.50	3.71	
18. 学生が実施してよい範囲・事柄を、実習の過程に応じて明確に示している	3.59	3.60	3.74	
23. 学生がより高いレベルに到達できるような対応をしている	3.34	3.25*	3.66	0.016
27. 学生が新しい体験ができるような機会を作っている	3.68	3.73**	4.08	0.003
30. 実習グループの中で、学生が互いに刺激しあって向上できるように働きかけている	3.17	2.96	3.47	
33. 学生が新しい状況や、今までと異なった状況に遭遇した時は方向づけている	3.45	3.40	3.68	
35. 学生自身が自己評価をできやすくするように働きかけている	3.23	3.27	3.39	
37. 学生が何か選択に迷っている時、選択できるように援助している	3.64	3.77	3.82	
38. 学生に良い刺激となるような話題を投げかけている	3.44	3.58	3.55	
41. 学生がうまくいかなかった時、そのことを学生自身が認めることができるように働きかけている	3.51	3.54	3.53	
42. 学生の受持ち患者様と、その患者様へのケアに関心を示している	3.90	4.00	3.97	
43. 学生が学習目標を達成するために、適切な経験ができるように援助している	3.81	3.88	3.97	
<b>学生への理解</b>	45.94	46.33	48.45	
4. 学生に対し（裏表なく）率直である	3.96	4.06	4.11	
9. 学生に対し思いやりのある姿勢でかかわっている	4.05	4.06	4.24	
10. 学生がうまくやれた時には、そのことを伝えている	4.18	4.39	4.29	
11. 学生が緊張している時には、リラックスさせるようにしている	4.04	4.12	4.32	
13. 学生同士で自由な討論ができるようにしている	3.40	3.57	3.74	
17. 学生が気軽に質問できるような雰囲気を作っている	3.70	3.69	3.97	
22. 学生に対する要求は、学生のレベルで無理のない要求である	3.81	3.90	4.05	
26. 学生一人一人と良い人間関係をとるようにしている	3.79	3.78	3.95	
28. 物事に対して柔軟に対応している	3.82	3.76	4.05	
34. 学生の言うことを受け止めている	3.93	3.86	4.13	
39. 指導の方法は統一している	3.57	3.43	3.71	
40. 学生に対し忍耐強い態度で接している	3.78	3.71	3.89	
<b>要素外の項目</b>	18.28	18.45	19.92	0.018
1. 学生に実習する上での情報を提供している	3.89	3.90	4.03	
3. グループカンファレンスや計画発表に適切な助言をしている	3.54	3.65*	3.97	0.012
29. 実習の展開過程において、適切なアドバイスをしている	3.55	3.65	3.82	
32. 患者と良い人間関係をとっている	4.08	3.92***	4.11	
36. 担当教員と良い人間関係を保っている	3.30	3.33***	4.00	0.002

\* P<0.05 \*\* P<0.01 \*\*\* P<0.001

表5 病棟に受け入れている教育課程数と ECTB 得点との関連

	1 課程 (n=105)	2 課程 (n=59)	3 課程 (n=16)	4 課程以上 (n=3)	P
<b>実践的指導</b>	22.59	22.11	23.73	23.67	
2. ケアの実施時には、学生に基本的な原則を確認している	4.19	4.13	4.19	4.33	
12. 専門的な知識を学生に伝えるようにしている	4.02	4.05	4.25	4.33	
16. 学生に対して看護者としてよいモデルになっている	3.56	3.53	3.81	3.67	
21. 理論的内容や既習の知識・技術などの実施に臨床の場で適用してみるように働きかけている	3.71	3.69	4.06	4.67	
25. 記録物についてのアドバイスは、タイミングをつかんで行えている	3.38	2.87	3.07	2.67	0.007
31. 必要と考えるときには、看護援助行動のお手本を学生に示している	3.73	3.84	4.13	4.00	
<b>理論的指導</b>	24.92	24.84	28.27	27.33	0.019
5. 学生に対し客観的な判断をしている	3.80	3.91	4.13	4.00	
6. 看護専門職としての責任を学生が理解するように働きかけている	3.72	3.71	4.06	4.33	
7. 学生の不足なところや欠点を、学生が適切に改善できるように働きかけている	3.66	3.78	4.06	3.67	
14. 学生が学ぶことの必要性や学習目標を認識できるように支援している	3.73	3.84	4.25	4.33	0.015
19. より良い看護援助をするために、学生に文献を活用するように言っている	3.26	3.00	3.75	3.67	0.021
20. 学生に事柄を評価しながら考えてみるように言っている	3.44	3.44	4.06	4.00	0.024
24. 記録物の内容について適切なアドバイスをしている	3.33	3.16	3.87	3.33	
<b>学習意欲への刺激</b>	45.79	46.59	50.13	52.67	
8. カンファレンスや計画の発表に対し建設的な姿勢で指導している	3.57	3.81	4.20	4.67	0.001
15. 学生が“看護は興味深い”と思えるような姿勢で仕事している	3.52	3.61	3.81	4.00	
18. 学生が実施してよい範囲・事柄を、実習の過程に応じて明確に示している	3.58	3.56	4.06	4.33	0.036
23. 学生がより高いレベルに到達できるように対応をしている	3.34	3.35	3.81	3.33	
27. 学生が新しい体験ができるような機会を作っている	3.67	3.86	4.13	4.67	0.004
30. 実習グループの中で、学生が互いに刺激あって向上できるように働きかけている	3.20	2.96	3.63	3.67	
33. 学生が新しい状況や、今までと異なった状況に遭遇した時は方向づけている	3.40	3.47	3.88	4.33	0.010
35. 学生自身が自己評価をできやすくするように働きかけている	3.25	3.22	3.50	4.00	
37. 学生が何か選択に迷っている時、選択できるように援助している	3.64	3.76	3.94	4.33	
38. 学生に良い刺激となるような話題を投げかけている	3.47	3.53	3.63	3.67	
41. 学生がうまくいかなかった時、そのことを学生自身が認めることができるように働きかけている	3.49	3.55	3.69	3.33	
42. 学生の受持ち患者様と、その患者様へのケアに関心を示している	3.88	4.02	4.13	4.00	
43. 学生が学習目標を達成するために、適切な経験ができるように援助している	3.83	3.91	3.88	4.33	
<b>学生への理解</b>	45.95	46.95	49.38	51.00	
4. 学生に対し（裏表なく）率直である	3.96	4.05	4.38	4.00	
9. 学生に対し思いやりのある姿勢でかかわっている	4.03	4.12	4.38	4.33	
10. 学生がうまくやれた時には、そのことを伝えている	4.17	4.37	4.44	4.67	
11. 学生が緊張している時には、リラックスさせるようにしている	4.05	4.16	4.50	4.33	
13. 学生同士で自由な討論ができるようにしている	3.41	3.61	3.75	4.33	
17. 学生が気軽に質問できるような雰囲気を作っている	3.70	3.79	4.00	4.33	
22. 学生に対する要求は、学生のレベルで無理のない要求である	3.80	4.00	4.06	4.00	
26. 学生一人一人と良い人間関係をとるようにしている	3.78	3.86	3.94	4.00	
28. 物事に対して柔軟に対応している	3.80	3.84	4.13	4.33	
34. 学生の言うことを受け止めている	3.91	3.96	4.13	4.67	
39. 指導の方法は統一している	3.54	3.54	3.75	3.33	
40. 学生に対し忍耐強い態度で接している	3.77	3.75	3.94	4.67	
<b>要素外の項目</b>	18.21	18.96	20.25	22.00	0.024
1. 学生に実習する上での情報を提供している	3.88	3.93	4.13	4.67	
3. グループカンファレンスや計画発表に適切な助言をしている	3.55	3.70	4.13	4.67	0.009
29. 実習の展開過程において、適切なアドバイスをしている	3.57	3.66	3.94	4.00	
32. 患者と良い人間関係をとっている	4.02	4.02	4.25	4.33	
36. 担当教員と良い人間関係を保っている	3.22	3.72	3.81	4.33	0.007

\* P<0.05 \*\* P<0.01 \*\*\* P<0.001

表6 各病棟の実習指導者の指導体制とECTB得点との関連

	専任のみ (n=6)	専任と兼任 (n=78)	兼任のみ (n=93)	P
<b>実践的指導</b>	<b>22.67</b>	<b>21.86</b>	<b>23.00</b>	
2. ケアの実施時には、学生に基本的な原則を確認している	4.50	4.11	4.22	
12. 専門的な知識を学生に伝えるようにしている	4.00	3.86	4.20	0.019
16. 学生に対して看護者としてよいモデルになっている	3.50	3.40	3.70	0.039
21. 理論的内容や既習の知識・技術などの実施に臨床の場で適用して みるように働きかけている	3.50	3.64	3.85	
25. 記録物についてのアドバイスは、タイミングをつかんで行えている	3.33	3.18	3.13	
31. 必要と考えるときには、看護援助行動のお手本を学生に示している	3.83	3.64	3.91	0.026
<b>理論的指導</b>	<b>25.00</b>	<b>24.53</b>	<b>25.71</b>	<b>0.141</b>
5. 学生に対し客観的な判断をしている	3.83	3.73	3.98	
6. 看護専門職としての責任を学生が理解するように働きかけている	3.67	3.62	3.87	
7. 学生の不足なところや欠点を、学生が適切に改善できるように働 きかけている	3.50	3.63	3.83	
14. 学生が学ぶことの必要性や学習目標を認識できるように支援している	3.67	3.77	3.86	
19. より良い看護援助をするために、学生に文献を活用するように言っ ている	3.83	3.15	3.22	
20. 学生に事柄を評価しながら考えてみるように言っている	3.33	3.42	3.57	
24. 記録物の内容について適切なアドバイスをしている	3.17	3.24	3.39	
<b>学習意欲への刺激</b>	<b>44.00</b>	<b>45.61</b>	<b>47.43</b>	
8. カンファレンスや計画の発表に対し建設的な姿勢で指導している	3.17	3.56	3.89	0.005
15. 学生が“看護は興味深い”と思えるような姿勢で仕事している	3.50	3.53	3.65	
18. 学生が実施してよい範囲・事柄を、実習の過程に応じて明確に示 している	3.50	3.49	3.78	0.033
23. 学生がより高いレベルに到達できるような対応をしている	3.17	3.36	3.43	
27. 学生が新しい体験ができるような機会を作っている	3.67	3.73	3.82	
30. 実習グループの中で、学生が互いに刺激しあって向上できるよう に働きかけている	2.67	3.18	3.21	
33. 学生が新しい状況や、今までと異なった状況に遭遇した時は方向 づけている	3.50	3.40	3.58	
35. 学生自身が自己評価をできやすくするように働きかけている	3.17	3.23	3.29	
37. 学生が何か選択に迷っている時、選択できるように援助している	3.50	3.64	3.78	
38. 学生に良い刺激となるような話題を投げかけている	3.50	3.45	3.56	
41. 学生がうまくいかなかった時、そのことを学生自身が認めること ができるように働きかけている	3.33	3.45	3.58	
42. 学生の受持ち患者様と、その患者様へのケアに関心を示している	3.50	3.86	4.03	
43. 学生が学習目標を達成するために、適切な経験ができるように援 助している	3.83	3.81	3.91	
<b>学生への理解</b>	<b>44.67</b>	<b>45.66</b>	<b>47.42</b>	
4. 学生に対し（裏表なく）率直である	3.33	3.95	4.12	
9. 学生に対し思いやりのある姿勢でかかわっている	4.00	4.01	4.17	
10. 学生がうまくやれた時には、そのことを伝えている	4.33	4.12	4.37	
11. 学生が緊張している時には、リラックスさせるようにしている	4.33	4.00	4.20	
13. 学生同士で自由な討論ができるようにしている	3.33	3.47	3.55	
17. 学生が気軽に質問できるような雰囲気を作っている	3.17	3.76	3.78	
22. 学生に対する要求は、学生のレベルで無理のない要求である	4.00	3.81	3.92	
26. 学生一人一人と良い人間関係をとるようにしている	3.83	3.68	3.92	
28. 物事に対して柔軟に対応している	3.83	3.78	3.92	
34. 学生の言うことを受け止めている	4.00	3.81	4.07	0.043
39. 指導の方法は統一している	3.50	3.54	3.57	
40. 学生に対し忍耐強い態度で接している	3.00	3.73	3.91	0.024
<b>要素外の項目</b>	<b>15.33</b>	<b>18.41</b>	<b>19.14</b>	<b>0.015</b>
1. 学生に実習する上での情報を提供している	3.50	3.82	4.02	
3. グループカンファレンスや計画発表に適切な助言をしている	2.50	3.59	3.80	0.005
41. 実習の展開過程において、適切なアドバイスをしている	2.67	3.59	3.73	0.047
29. 患者と良い人間関係をとっている	4.17	3.93	4.13	
32. 担当教員と良い人間関係を保っている	2.50	3.46	3.53	

\* P<0.05 \*\* P<0.01 \*\*\* P<0.001